

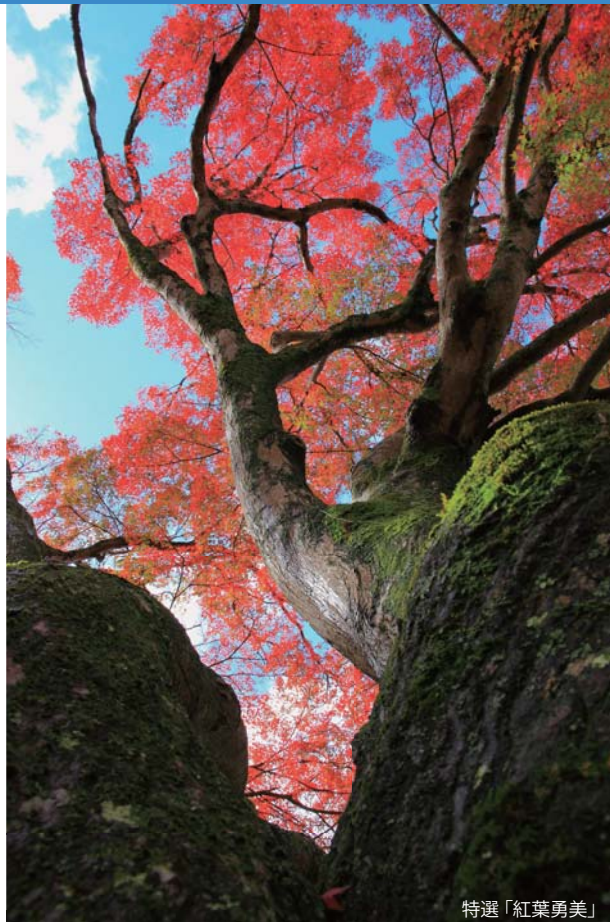
人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

No.55
5月号

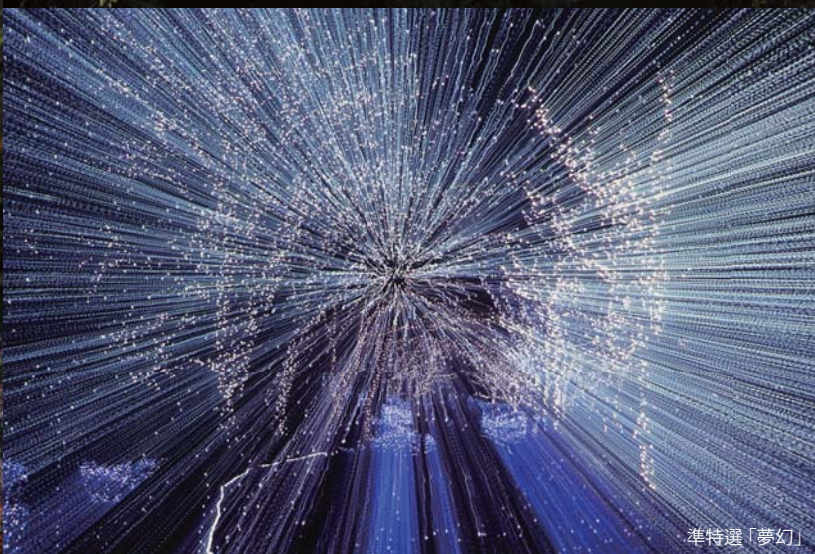
2010年5月13日発行



特選「紅葉勇美」



準特選「大簾峠の雲海」



準特選「夢幻」



準特選「秋音」



準特選「花一輪」



今月の表紙

表紙写真は、町観光写真コンクールで特選・準特選を受賞した作品。受賞作品には、有名な観光名所やこれまでに知られていなかった風景などが収められ、それぞれの作品を通じて京丹波町の魅力や特色が表現されています。（上記写真は3月24日の審査会風景、関連記事は15ページに掲載）

緊急患者の命を救う

ドクターヘリ

重症患者に専門的な処置を行う医療機関から離れた地域での救命率向上を目指して、四月十七日に運行が開始された「ドクターヘリ」。今回は、ドクターヘリの概要をはじめ、運行前に行われた実地訓練や救急隊員のインタビューなどを交えて、京都中部広域消防組合（消防組合）と医療機関などが連携した、町民のみなさんの安心・安全を守る新たな取り組みについてお知らせします。



ヘリ内部

ドクターヘリとは

緊急患者の輸送手段としては、主に救急車が使われますが、本町のような山間地域で専門的な処置を行う医療機関までの搬送に多くの時間を要する場合、搬送時間の短縮に大きな課題がありました。このようなことを踏まえ、医療処置が行える救急専門医と看護師を乗せ、救急医療に必要な人工呼吸器や除細動器などの機器を備えた専用のヘリコプターで患者のもとへ緊急出動し、適切な救命処置を施しながら、救急医療機関へ迅速に搬送するのが「ドクターヘリ」です。

運行範囲と出動体制

今回導入されたドクターヘリは、京都府・兵庫県・鳥取県が共同運航し、京都府は亀岡市以北の地域、兵庫県は北部地域、鳥取県は東部地域を運航範囲としています。

また、ドクターヘリは、救命救急センターがある公立豊岡病院（兵庫県）を基地病院とし、出動要請があれば、基地病院から各地域の臨時発着場（表1参照）に着陸して、救命処置や適切な医療機関への搬送を行います。（表2参照）

要請方法や費用負担

ドクターヘリは、毎日運航しており、おおむね午前八時三〇分ー日没三〇分前まで現場へ出動します。ただし、有視界飛行のため、霧や雪、強風などの悪天候、日没以降の夜間などは運行ができません。

なお、出動要請は消防組合が行うため、一般の方が個別に要請することはできません。

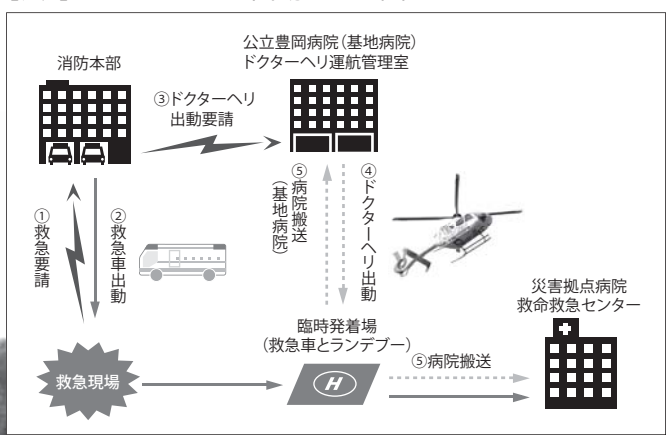
また、ドクターヘリでの搬送にかかる費用負担はありませんが、救急現場やヘリコプター内での医療行為については、病院受診と同様に、医療費の一部を負担する必要があります。

〔表1〕 町内の「臨時発着場（ランデブーポイント）」

丹波地区	蒲生野中学校グラウンド／竹野小学校グラウンド／丹波ひかり小学校グラウンド／下山小学校グラウンド
瑞穂地区	瑞穂中学校グラウンド／桧山小学校グラウンド／明俊小学校グラウンド／質美小学校グラウンド／三ノ宮農村公園グラウンド／グリーンランドみずほ多目的グラウンド
和知地区	和知中学校グラウンド／和知小学校グラウンド／わちグラウンド

*ドクターヘリが離着陸する場合、消防職員などの指示に従い速やかに退避してください。また、着陸後は救命治療を行いますので、近寄らないでください。

〔表2〕 ドクターヘリの出動フロー図



No.55 CONTENTS	
2	緊急患者の命を救う「ドクターヘリ」
6	都市計画区域の整備方針などを示す「都市計画マスタープラン」を策定
8	人の動き
10	暮らしのガイド —気象警報・注意報を市町村ごとに発表します—
11	Dr's Message いきいき健康術
12	FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2010 新団長に梅原好範氏が就任 —京丹波町消防団入退団及び役員任命式— 気持ちを新たに学校生活がスタート —入学・入園式— 歴史と文化を伝える人形展 —ふるさと人形展— 梅を生かした地域づくり —下大久保梅林事業完成式— 交通事故防止を目指して —「春の全国交通安全運動」街頭啓発/パレード— きれいな道路環境で町のイメージアップを —ボランティア・ロード丹波— 新たな町の魅力を発掘 —京丹波町観光写真コンクール— 年々深まる都市と農村の交流 —和知ふるさと農園開園式—
16	シリーズ 地元で採れる旬の食材を使った料理レシピ

インタビュー

京都中部広域消防組合 園部消防署丹波出張所

救急救命士 川原 弘さん



消防指令室が二九番通報を受けた時、電話で病気の症状やけがの程度などを確認し、ドクターヘリが必要であれば要請します。基地病院である公立豊岡病院から本町の臨時発着場までは百キロメートル圏内にあることから、要請後約二十五分で到着することが可能です。しかし、実際に救急隊員が現場で患者の状態を確認し、必要がないと判断すればキャンセルする場合もあります。

また、ドクターヘリが着陸する

場合、台風並みの風圧が発生し、飛散物や土煙などを巻き上げるため、臨時発着場に指定されたグラウンドの使用中断や、車両移動を要請することがありますので、町民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

ドクターヘリの最大の目的は、救急現場にいち早く医師が駆けつけ、傷病者の救命率の向上と後遺症の軽減を図ることです。町民のみなさんの安心・安全を守るために活用できればと考えています。



土煙などの飛散を防ぐために散水する隊員



患者を乗せて南丹病院に飛び立つドクターヘリ



救急車からヘリへ患者を搬送する専門医たち



救急車で医療処置を行う専門医たち



ドクターヘリを着陸地点に誘導する隊員

関係機関の円滑な連携を目的とした「実地訓練」

四月十七日からの運行が円滑に行われるように実施された「実地訓練」。グリーンランドみずほを舞台に、実践しながらの白熱した訓練が繰り広げられました。



四月十四日、町内で緊急患者が発生し、ドクターヘリで南丹病院まで搬送する必要があるとの想定で行われた「実地訓練」。運行開始を目前に控え、消防組合隊員（隊員）や地元医療機関関係者らが参加し、緊迫した状況の中で訓練が行われました。

実地訓練は、通報を受けた隊員からのドクターヘリの出動要請を合図に開始。訓練が始まると、隊員は患者を救急車で搬送し、臨時発着場である多目的グラウンドに急行。現場に到着すると、土煙などの飛散を防ぐための散水や周囲の安全確保を行い、ヘリコプターの誘導員を配置して待機。ドクターヘリは、要請を受けて約二十五分で到着し、搭乗していた専門医と看護師が救急車内で医療処置を行った後、患者をヘリに搬送しました。

また、実地訓練では、ドクターヘリの概要や装備している医療機器などの説明が行われ、公立豊岡病院・但馬救命救急センター長の小林誠人医師が「ドクターヘリは緊急患者の命を救うために運行されるので、現場の判断により、必要に応じて要請してください」と話し、ドクターヘリの積極的な活用を関係者らに伝えました。

都市計画区域の整備方針などを示す

都市計画 マスタープランを策定

丹波都市計画区域(以下「計画区域」)の地区別の将来像や都市づくりの整備方針などを示した「京丹波町都市計画マスタープラン」(以下「プラン」)。町では、丹波高原文化を育むまちづくりを目指して、町都市計画審議会(中村忍会長、委員15人)からの答申書をはじめ、町民の意見を反映するためのアンケートやパブリックコメントを踏まえた上で、同区域の現状分析、主要課題、将来目標、基本方針などを定めたプランを本年3月に策定しました。

■計画策定の 背景と位置付け

本町では、昭和六十一年三月に旧丹波町面積の約八割に当たる五八九五ヘクタールが計画区域に指定され、都市計画道路(京都縦貫自動車道など)や都市計画公園(丹波自然運動公園、須知公園)、特定環境保全公共下水道の整備を進めています。が、土地利用規制などの位置付けがない状況であったため、住民・事業者・行政がまちづくりに関する共通認識を持ち、連携を図りながら、地域の魅力向上や都市施設の計画的な整備、多様なまちづくり活動などを総合的に展開する指針としてプランを策定しました。



寺尾町長に答申書を提出する
中村会長(右)と横山副会長
(役場町長室・蒲生)

■現状分析を踏まえた主要課題

現状分析を踏まえた上で、プランでは同区域の主要課題を次のとおり示しています。

課題1 人口減少、高齢社会への対応

いきいきと暮らし続けるための仕組みづくりや、次代を担う子どもがまちづくりに参加できる仕組みづくり、定住人口増加に向けた生活基盤の充実と情報提供の仕組みづくりが必要。

課題2 定住や産業立地の基礎となる安定水源の確保と 広域および幹線道路網の充実

住宅団地や京都中央テクノパークなどへの新たな水源となる畑川ダム整備の早期完成、広域交通網を担う京都縦貫自動車道の整備、未整備区間を残す幹線道路の早期完成が必要。

課題3 来訪魅力の形成

来訪者を地域の振興に結び付けるために、地域特性や既存施設を生かし、「行ってみたい」「立ち寄りたい」「ここにしかない」といった来訪魅力を形成していくことが必要。

課題4 公共公益施設などの活用・適正管理と整備充実

公共公益施設などのバリアフリー化や老朽化などへの対応、耐震強化、リニューアルをはじめ、情報格差改善に向けたケーブルテレビ拡充、住民サービスの拠点となる新庁舎建設などの取り組みが必要。

課題5 まちづくり活動への参画機会の拡充と まちづくり推進体制の構築

まちづくり活動への参画機会の拡充および継続的な活動への発展。さらに、住民や各種団体、関係機関などとの連携によるまちづくり推進体制を明確にすることが必要。

■まちづくりの 理念と目標

プランでは、町総合計画が定める「人のぬくもりとふれあい」が奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷●京丹波」を基調とし、まちづくりの理念と分野別の目標を次のとおり示しています。

まちづくりの理念

- 由良川水系上流域の自然や先人が築きあげた歴史・風土との共生
- 水源の確保と広域交通網の充実
- 子どもや高齢者・障害者が暮らしやすい環境の充実
- 自然・歴史文化・スポーツ・食・産業などによる広域交流機会の拡充
- 住民・事業者・各種団体など行政との協働

まちづくりの目標

【交流および産業の基盤形成の目標】
にぎわい・活力を育む
まちづくり

京都縦貫自動車道やＪＲ山陰本線の整備効果を発揮するため、アクセス道路および産業活動拠点、定住基盤などを整備するとともに、歴史や清流、田園、緑、公園などを生かした多様な交流の場づくりを進めます。

【公共公益施設整備および防災・防犯などの目標】 安全・安心・いきいきと 暮らせるまちづくり

災害発生を教訓とし、河川改修や山林・ため池の保全、避難場所などの整備とともに、土砂災害警戒区域などの指定に向けた取り組みを促進。また、バリアフリー化や危険箇所などの改善、子どもや高齢者の見守り体制づくり、ケーブルテレビ整備などによる定住魅力の充実を進めます。

【自然環境、集落・都市景観形成の目標】 清流・緑・歴史が映える まちづくり

地域資源などを保全するとともに、公共公益施設の緑化促進など一体となつて潤いのある空間形成を推進。また、田園や歴史的景観と調和した本町らしい市街地および集落の形成に向けたルールづくりを進めます。

【まちづくり活動などの目標】 みんなが誇れる まちづくり

行政と住民、事業者、関係団体との協働を基本とし、多くの方が活動に参画できる機会を設けながらまちづくりを推進。また、多様な交流により、まちづくり活動の発展を図るための推進体制づくりを進めます。

地域別構想の役割と地域区分

地域別構想は、日常生活圏や地域個性などを踏まえ「竹野」「丹波ひかり」「下山」の小学校区単位で、次のとおり、地域づくりの目標と基本方針を定めています。

竹野地域

- 【目 標】清流と田園の豊かさを育む里づくり
【基本方針】
- 須知川は、課外授業や自然観察などの場としての活用を検討します。
 - 竹野小や竹野運動公園の緑化を進め、緑や紅葉の拠点形成を図ります。
 - 丹波食彩の工房などとの連携による特産品加工体験や、農産物・特産物の直売イベントなどを検討します。
 - 広域農道を地域の個性形成に配慮した道となるよう整備を検討します。また、府道篠山京丹波線などでは、街路樹などの植栽を促進します。

丹波ひかり地域

- 【目 標】にぎわいを育む里づくり
【基本方針】
- 豊田富田線などは、通過交通を排除し、安全で快適な歩行者空間を確保します。
 - 安全で快適な歩行空間の確保や地域資源を生かした町なみ形成公園広場などの整備、タウンウォッチングなどのイベントを検討します。
 - 須知川・能満神社、農地などが一体となった田園景観の形成と、須知川緑道(仮称)の整備を検討します。
 - 琴滝や周辺の自然環境の保全と充実、ハイキング道の整備を検討します。
 - 京都縦貫自動車道の整備に伴う景観および環境対策の促進、丹波ハーキングエリア(仮称)の機能充実と周辺整備を検討します。
 - 須知公園や役場新庁舎などの整備に関連し、住民参画の機会を設けます。

下山地域

- 【目 標】自然とのふれあいを育む里づくり
【基本方針】
- 丹波綾部線の整備により、国道二七号は通過交通を排除し、安全で快適な歩行者空間を確保します。
 - 丹波綾部線とＪＲ下山駅および京丹波三和線との円滑なネットワーク形成について検討します。
 - 畑川ダム湖畔公園(仮称)や湖面の活用など、地域振興に寄与する施設などの整備を検討します。
 - ＪＲ下山駅から不伐の森、または畑川ダム湖畔へと通じるハイキング道などの整備を検討します。
 - 京都中央テクノパークでは、自然と歴史的景観に配慮した施設建設や操業が行われるよう規制・誘導を図ります。また、ハイキングなどの個性ある公園整備を検討します。

人の動き

(敬称略)

■区長さんお世話になります

【丹波地区】

笹尾／一谷 寛
中畑／中西和之
辻村／山鳥和則
中村／金延英樹
下村／小峰雅人
鎌倉／福西昭博
西階／中村 剛
水戸／西垣秀夫
新水戸／安井 学
須知／久保田一郎
市森／田端嘉秀
上野／原澤松夫
蒲生／猪田浩三
蒲生野／藤巻靖子
曽根／西畑幸二
院内／野間周伯
幸野／勝木辰美
森／浅井清信
塩田谷／武内 務
安井／林 諭
富田／谷村 修
豊田／山内芳美
上豊田／野口密次
実勢／滝本 實
下山／隅山國夫
グリーンハイツ／今西孝司

【瑞穂地区】

中台／澤村 彰
橋爪／山下靖夫
和田／奥 浩一
井脇／松野堯俊
大朴／奥井賢治
井尻／吉見政和
八田／高畑貞夫
小野／尾林義信
長谷／瀬川壽男
坂井／竹市健夫
水原／山田淳二
上大久保／辻 雅
下大久保／畠中二三雄
鎌谷下／木村 健
鎌谷中／山田 博
鎌谷奥／奥井 強
東又／上田 駿
保井谷／野村諭司
粟野／山内 清
妙楽寺／上田 進
水呑／藤井 保
三ノ宮／小山 満
質志／北村吉一
戸津川／後藤和司
猪鼻／西村明男
行佛／久木寿一
中村／松本幹夫
庄ノ路／林 啓治
和田／岩田恵一
上野／水嶋正治
下村／大西重信
北久保／山根泰司

【和知地区】

中山／小林勝久
升谷／小松 浩
市場／山口康弘
大倉／村山 聡
篠原／加島孝一
大迫／堀 静夫
長瀬／山口喜之
塩谷／堀 智行
上乙見／片山文生
下乙見／山本倉司
西河内／藤田直也
下粟野／伊野彰紘
細谷／吉田 学
上粟野／梅原昇治
仏主／藤田 勉
本庄／吉田 昭
坂原／野間真二
中／野間靖隆
角／松下博幸
広瀬／白波瀬敏男
才原／野間 義
大簾／才村斯男
広野／下林康邦
出野／三浦幹三
稲次／片山貞夫
安栖里／片山茂雄
小畑／正田久仁雄

■教職員の異動

【転出】（ ）は転出先など

竹野小／教頭・湯浅俊治
（南丹市立神吉小）
▼藤原 潔（亀岡市立西別院小）
下山小／小林真代（亀岡市立曾我部小）
松山小／福岡貴之（南丹市立西本梅小）
明俊小／校長・稲元幹生
（南丹市立大野小）
三ノ宮小／森田一彦
（府立丹波養護学校）
▼伊藤由美子
（南丹市立殿田小）
▼渡邊陽亮
（亀岡市立禰田野小）
▼吉田義幸
（南丹市立胡麻郷小）
質美小／乾 富美子（南丹市立平屋小）
和知小／笹岡弘嗣（亀岡市立川東小）
蒲生野中／校長・中藤昌明
（南丹市立殿田中）
▼的場晴美（南丹市立園部中）
瑞穂中／白井裕貴（南丹市立園部中）
【転入など】（ ）は前任校など
竹野小／教頭・川勝明彦（下山小）
丹波ひかり小／村山博司（和知小）
▼小竹 瞬（新規採用）
下山小／校長・日下部安良
（亀岡市立城西小）
▼教頭・小畑恵子
（南丹市立新庄小）
▼塩貝真由美（質美小）

松山小／校長・井尻常夫

（南丹市立富本小）

▼小嶋正悟

（京丹後市立大宮第一小）

▼小牧綾美（明俊小）

明俊小／校長・山内朝文（質美小）

▼北井松明（質美小、事務主任）

三ノ宮小／教頭・森脇英隆

（亀岡市立つつじヶ丘小）

▼下和田 剛（丹波ひかり小）

質美小／教頭・稲澤直美（三ノ宮小）

▼福西紀子（下山小）

和知小／校長・北村友子（南丹教育局）

▼藪本好央（松山小）

▼平野早苗（明俊小）

蒲生野中／校長・大塚正広（瑞穂中）

▼田中満代（南丹市立美山中）

▼廣瀬浩昭（亀岡市立大成中）

▼清水十恵（新規採用）

瑞穂中／校長・古杉辰義（和知中）

▼山本隆史（南丹市立園部中）

和知中／校長・新宮雅之

（亀岡市立高田中）

▼教頭・平田敬一

（亀岡市立亀岡中）

【退職】（ ）は前任

校長・由良賀代子（下山小）

▼校長・山内幸博（松山小）

▼校長・今泉文雄（和知小）

▼教頭・内藤正高（和知中）

▼船木慎也（丹波ひかり小）

▼近江 望（三ノ宮小）

▼小島みゆき（蒲生野中）

▼細川彰博（明俊小、事務主任）

■人権擁護委員（任期三年）

【再任】

片山加代子

（大簾）



委嘱状を受ける片山さん（役場町長室・蒲生）

■消防団（任期二年）

団 長／梅原好範

副団 長／湊 嘉秀 ▼真野勝也

▼栗林英治

【丹波支団】

支団 長／長澤 誠

分団 長／小谷誠之 ▼松山征義

▼林 淳 ▼谷垣年昭

▼堀内浩二 ▼森田浩史

▼岩崎篤也

副分団長／西垣吉裕 ▼田端卓史

▼谷澤利夫 ▼湊 公雄

▼田中拓人 ▼湊 博之

▼塩瀬健一

【瑞穂支団】

支団 長／川寫勇人

分団 長／西村正義 ▼居谷太志

▼坂本信幸 ▼橋本秀樹

▼隅田光郎

副分団長／松村 悟 ▼友金輝幸

▼西村孝之 ▼山下 泰

▼西田和史 ▼塩田智之

▼津田康裕 ▼前田和彦

▼堂本 学 ▼岩崎秀司

【和知支団】

支団 長／大田有次

分団 長／宇野浩史 ▼堀 敬之

▼堀 太 ▼竹内伸広

副分団長／田中晋雄 ▼古宮幸憲

▼川邊智行 ▼竹内知広

▼和田一男 ▼梅原義幸

▼広瀬正明 ▼堀 正樹



幹部団員に任命書を交付する梅原団長
（蒲生野中学校・蒲生）

■体育指導委員（任期二年）

【再任】

川勝忠司（下山）

▼津田勝二（南丹市園部町）

▼東 清子（高岡）

▼田中敏夫（橋爪）

▼西垣正則（水戸）

▼坂本貴之（猪鼻）

▼瀬戸 豪（蒲生）

▼片田泰和（升谷）

■文化財保護委員（任期二年）

【再任】

浅井義久（森）

▼齋藤 治（下山）

▼原澤真知子（高岡）

▼正田幸治（質美）

▼八木啓二（鎌谷中）

▼片山忠二（安栖里）

▼春田 貢（本庄）

▼榎本藤雄（下粟野）

【新任】

東 利博（質志）

【退任】

上田寛治（妙楽寺）

■消費生活グループ

会 長／田畑美さ子（蒲生）

副会長／加藤ちよみ（井脇）

会 計／西村祥栄（広野）

委 員／野口和子（曽根）

▼野田康子（高岡）

▼竹内和代（粟野）

▼中西陽子（質美）

▼野間妙子（本庄）

▼下林登志子（広野）

※退任されたみなさん、ご苦労さまでした。新しく
お世話になるみなさん、よろしく願います。

気象警報・注意報を 市町村ごとに発表します

京都地方気象台では、京丹波町を含む「南丹・京丹波」の地域名で警報・注意報を発表していますが、平成22年5月27日(予定)からは「京丹波町」を明示して発表します。

警報・注意報の発表地域や内容を知るには

大雨や洪水などの警報や注意報が発表された場合、テレビやラジオによる放送や、インターネット、携帯電話などの情報提供サービスにより知ることができます。

◆テレビやラジオによる放送からの入手

テレビやラジオなどで警報・注意報を発表される場合、画面に表示できる文字数や読み上げ可能な文章の範囲内で放送するため、これまでどおりの地域名(「南丹・京丹波」など)で放送される場合があります。

◆インターネットや携帯電話などの情報提供サービス

市町村ごとの警報・注意報の詳細な内容は、次のホームページなどをご覧ください。

- ・気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/>
- ・国土交通省防災情報提供センター(携帯電話サイト) <http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>

防災情報提供センター
携帯端末用QRコード



問い合わせ／京都地方気象台防災業務課 ☎075—841—3006

『関節痛について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。
今回の担当は、本年四月から京丹波町病院で週二回外来(内科)を担当されている新美美貴子先生。『関節痛』の症状などについてのお話です。

関節痛には、急性(二週間以内に発症)と慢性(数か月以上継続)などがあり、関節炎(腫れ、赤み、押したときの痛みなど)を伴うかの確認が重要です。

高齢者の関節痛について

■変形性関節症

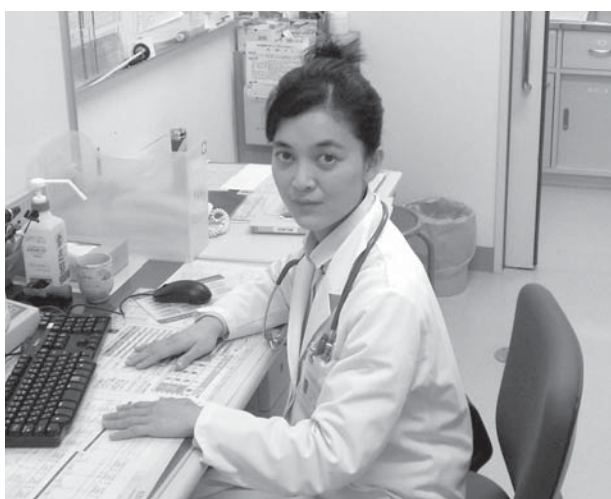
高齢者でひざ関節痛や腰痛があった場合に多いのが「変形性関節症」です。これは、慢性の経過で発症し、手指や頸部に症状が現れる場合もあります。

手指の場合、朝、指がこわばって動かなくなる症状があり、関節リウマチと鑑別するため、血液検査やX線検査などを行います。

治療としては、安静や消炎鎮痛薬などがありますが、一般的にひざ関節への負担が増加すると起こりやすくなるので、体重コントロールに心がけ、肥満を防ぐことが大切です。

■関節リウマチ

関節リウマチは、高齢者に多いイメージがありますが、多くは六十歳未満で発症した患者が高齢化しています。手首やひじなどの関節痛が慢性的に持続することが多く、急性の経過でさまざまな関節に痛みが現れることがあり、関節の痛みや腫れ、朝に指がこわばって動かなくなる症状があります。



内科医師 新美 美貴子先生
京丹波町病院＝毎週金曜日の午前中に外来診察
附属質美診療所＝毎週金曜日の午後診察

自己免疫疾患であり、多くは原因不明ですが、リウマチにかかりやすい体質などの方にウイルスなどさまざまな要因が関与することで発症すると考えられています。気になる症状があれば、専門の医療機関で受診し、診断や治療をしてください。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
(電話)8610220

新団長に梅原好範氏が就任

■京丹波町消防団入退団及び役員任命式

平成二十二年度京丹波町消防団入退団及び役員任命式が四月一日、蒲生野中学校体育館で行われ、消防団員ら約二百人が出席しました。

今年度は幹部団員の改選があり、寺尾豊爾町長が梅原好範団長を任命後、梅原団長が副団長などの幹部団員（一人の動き（九ページ）に掲載）や本年度の部長・班長、入団者に任命書を交付。続いて、新入団員代表の軽尾昌泰さん（水原）が入団者宣誓をした後、平成二十一年度表彰の伝達や退団者への辞令交付などが行われました。

式の中で梅原団長は、「町消防団発足から四年が経過する中、行政や常備消防、地域のみなさんのご



入団者宣誓をする軽尾さん（蒲生野中学校・蒲生）

協力のもと、一定の環境整備と組織の基礎が築かれてきた。今後は、『自らの町は、自らの手で守る』との強い気持ちで、防災はもとより、地域が抱える課題解決に向け団員一丸となって活動していきたい」と訓示を述べました。

また、退団者を代表して森良行前団長は、「多くの方のご支援とご協力をいただき、初代団長として四年間務めさせていただいた。今後は、梅原団長のもとで団結し、地域防災の強化や町消防団の発展のために尽力してください」とあいさつしました。

なお、入退団者および表彰受賞者は、次のみなさんです。（敬称略）

【新入団員】

■丹波支団

森 剛▼下口卓郎▼山根悠治
▼明田祥吾▼荒田真吾
▼森内慎吾▼杉本尚也
▼川田昌利▼田端大輔
▼柏木隼人▼岩崎祥史
▼山田啓亮▼稲葉 伸
▼吉田幸玉▼細見裕一
▼徳岡和基▼安井英臣
▼太田祐宣▼新宮哲也
▼吉岡秀貢▼福井隆幸
▼森 治▼寺坂佳祐▼森田 亮

▼北村徹二▼小森一樹
▼大槻真弘▼小野真史
▼山本祐二

■瑞穂支団

柏木晃司▼山内健作▼近岡豊二
▼矢吹智彦▼山下瑞樹
▼渡辺剛志▼前川淳二
▼田中章吾▼鈴木朋輝
▼岡本直樹▼軽野雅洋
▼軽尾昌泰▼中村浩樹
▼山田修司▼塩田真也
▼谷口洋行▼上田英明
▼竹内泰文▼山根和也

■和知支団

小松敏夫▼坂本 誠▼隅山淳史
▼片山拓郎

【退団者】

団 長 森 良行
支団長 増谷隆男

■丹波支団

樹山敏彦▼湊 和之▼谷垣昭雄
▼河方有規▼田端晴範
▼岩崎浩和▼川田鉄也
▼樹山正信▼林 寿雄
▼西 由春▼西田 勇
▼村山 厚▼谷山 剛
▼森田 茂▼岩内司朗
▼大槻 太▼細井 隆
▼松下進也▼大槻富美雄

■瑞穂支団

伊藤佳朋▼山根一明▼上原輝也
▼宮前正敏▼雑賀智士

▼平尾康司▼吉田 薫
▼森下義之▼井上 勉
▼保田正和▼高橋英樹
▼山内千裕▼福田慎也
▼谷垣藤男▼畠中 知
▼塩田吉之▼畑 弘文
▼軽尾昌司▼真野 明
▼山内 始▼一瀬 誠

■和知支団

片山弘明▼橋本秀明▼仲井勇樹
▼村山 聡▼乾 正▼出野邦明
▼榎川 諭▼堀 勝彦
▼福井克司▼隅山昌明

【消防庁長官表彰】

永年勤続功労章

湊 嘉秀（支団長）

増谷隆男（同）

【財団法人日本消防協会長表彰】

功績章 栗林英治（支団長）

精績章 川島勇人（分団長）

樹山敏彦（同）▼長澤 誠（同）

勲統章 片山弘明（分団長）

▼川田鉄也▼森 俊明

【丹波地方消防連絡協議会長表彰】

木戸律夫（部長）▼谷垣昭雄（同）
▼湊 博之（同）▼西田和資（同）
▼友金幸夫（同）▼真野 明（同）
▼貞守 順（同）▼藤本直之（同）
▼江本勝行（同）▼野間智樹（同）
▼小林淳信（同）

※平成二十一年度表彰のため、当時の役職名です。

気持ち新たに学校生活がスタート

■入学・入園式

四月九日、町立中学校（蒲生野、瑞穂、和知）の入学式が行われ、在校生や保護者らが見守る中、新入生百七十七人が中学校生活の新たな一歩を踏み出しました。

瑞穂中学校では、担任教諭が入学生の呼名を行った後、古杉辰義校長が『健康・健全』『自主・人権』『明朗・明晰』の頭文字を合わせた『けじめ』を合言葉に、みなさんが思い描いた中学校生活が送れるよう励んでください』と式辞を述べました。また、在校生代表の木南僚太さんが『けじめのある学校生

活を送り、楽しい笑顔を増やすことで、瑞穂中学校をより良くしていきたいでしょう』と歓迎の言葉を述べ、続いて、新入生代表の的場斐那さんが『瑞穂中学校の生徒として自覚と誇りを持ち、それぞれが定めた目標達成に向けてたゆまず努力します』と力強く誓いの言葉を述べました。

四月八日には町立小学校（竹野、丹波ひかり、下山、松山、明俊、三ノ宮、質美、和知）で入学式が行われ、計百十二人が入学。四月六日には町立保育所（松山、和知、上豊田、下山分園）で計七十二人、四

月十三日には須知幼稚園で二十二人が入園しました。



新入生を代表して宣いの言葉を述べる的場さん（瑞穂中学校・大朴）

歴史と文化を伝える人形展

■ふるさと人形展

四月三日から七日までの五日間、第十九回ふるさと人形展（町教育委員会、町ふるさと体験資料館運営委員会主催）が質美地内にある「みずほ人形の家みやび」で開催され、期間を通じて延べ七百五十四人が来場しました。

同人形展では、雛人形や五月人形、土人形など、町内外の多くの方から寄贈された約千七百体の人形

が会場に所狭しと並べられ、訪れた人々を楽しませていました。また、期間中には、質美地区の地元有志や町共同作業所のみなさんなどによる模擬店が出店され、人形展を盛り上げました。

同館運営委員長の北村始子さんは、「よりよい形で人形を見てもらえるよう配置などで工夫を凝らすとともに、少しでも多くの人形を展示するために、昨年度は使用

していなかった部屋を使ってコーナーを増やしました。今年も多くの方に来場いただけて良かったです」と話しました。

同人形展は、寄贈された貴重な人形を一人でも多くの方に見ていただくことを目的に、平成四年から続く恒例行事。平成十四年度には、人形を常設展示することができ、施設として「みずほ人形の家みやび」を開設し、同人形展をはじめ、社会見学の受け入れなどを行っています。



昔懐かしい土人形などを見つめる来場者（みずほ人形の家 みやび・質美）



在校生からの歓迎の歌を聞く新入生（丹波ひかり小学校・須知）



担当から呼名を受ける新入児（わちエンジェル・大倉）

梅を生かした地域づくり

■下大久保梅林事業完成式

下大久保区が取り組んでいる梅林事業の完成式が三月二十七日、同区内にある梅林公園で行われ、区民や関係者ら約四十人が出席しました。

同区は、地域の将来目標を「夢と希望の村づくり」とし、梅を生かした地域活性化を目指して梅林計画を策定。計画の実現に向けて、京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金の採択を受け、二十年度には梅林整備に向けた調査・研究などのソフト事業を行い、二十一年度に土地の造成工事や有害鳥獣

防止柵（金網柵）の設置、梅の植栽などを実施されました。

完成式では、同区の西田肇区長が「長期間にわたる取り組みが実を結び、本日の完成式を迎えることができた。区の日役として金網柵設置や梅の植栽作業に対応いただいたことは、特筆すべき事柄であり、今後も『夢と希望の村づくり』を目指して活動が続けていきたい」とあいさつした後、来賓の畠中源一（はななかげいち）副町長が「梅林整備事業が地域づくりの先進的なモデル事業となるよう、今後も地域のみなさんが力を合わせてがんばっていただきたい



完成式であいさつをする畠中副町長（梅林公園・下大久保）

い」と祝辞を述べました。

また、完成式終了後には、オーブンゲセレモニーとして「もちつき」が行われ、つきたてのもちが参加者に振る舞われました。

きれいな道路環境で町のイメージアップを

■ボランティア・ロード丹波

地域住民が主体となって美化活動を行う「ボランティア・ロード丹波」が四月二十五日、丹波自然運動公園前から京都縦貫自動車道入口までの国道九号沿いを対象に行われ、約百六十人が参加。参加者らは、たばこの吸殻や空き缶などのごみ拾い、歩道植樹帯の除草作業を手分けして行い、ゴールデンウィークで多くの人が利用する道路の環境美化に努めました。

この取り組みは、ボランティアで国道九号沿いの清掃や緑化活動などを行い、地域にふさわしい道づくりを進めることを目的に、四・七・十月の年三回実施。今年度は七月二十五日、十月三十一日に実施を予定していますので、多くの方のご協力をお願いします。



美化作業を行う参加者（国道9号沿い歩道・須知）

交通事故防止を目指して

■「春の全国交通安全運動」街頭啓発パレード

南丹船井交通安全協会が四月六日、「春の全国交通安全運動」（四月六日―十五日）の取り組みの一環として、本町と南丹市で街頭啓発パレードを実施しました。

街頭啓発に先立って行われた出発式には、同協会員や南丹船井地域交通安全活動推進委員、府自動車安全利用推進員、南丹警察署員



出発式で谷部南丹警察署長のあいさつを聞く参加者（南丹市役所・南丹市内）

らが参加し、運動の基本である「子どもと高齢者の交通事故防止」を

再確認した後、本町と南丹市方面に分かれて街頭啓発パレードを行い、交通事故への注意などを呼びかけました。

交通安全運動は、春・夏・秋・年末の計四回行われており、今後は次の期間で計画されています。
・夏の交通事故防止府民運動 七月二十一日―八月二十日
・秋の全国交通安全運動 九月二十一日―三十日
・年末の交通事故防止府民運動 十二月十一日―三十一日

新たな町の魅力を発掘

■京丹波町観光写真コンクール

第二回京丹波町観光写真コンクールの表彰式が四月十六日、入賞者や関係者らが出席する中、役場議場で行われました。

同コンクールは、町内の観光資源の掘り起こしやPRを目的に、「わたしが見つけた京丹波、この美しさをいつまでも」をテーマとして、三部門で実施。応募数は、観光写真の部が百二点、携帯電話カメラの部が四点、子ども作品の部が三点で、三月二十四日に日本写真家協会会員・中田昭さんら五人の審査員で審査を行い、入選作品な



副町長から賞状を受け取る築山さん（役場議場・蒲生）

どを選びました。

表彰式では、畠中源一副町長が「作品を見ると、町の魅力がはつきりと映し出されており感動しました。作品を通じて情報発信すること、町の良さを多くの人に知っていただき、町民のみなさんの自信と誇りにつながるように活用させていただきます」とあいさつした後、入賞者に賞状を贈呈。また、町長賞を受賞した築山忠則さんは、

「撮影したのは角区のモミジ。毎年、紅葉の具合を見ていたところ、昨秋に特にきれいに色づいたので、天候などを見ながら、青空と雲のバランスなどを考えて撮影しました。受賞できたので満足しています」と感想を話されました。

なお、入賞者は次のみなさんです。（敬称略）

■観光写真の部

【特選】

町長賞「紅葉勇美」

築山忠則（小畑）

【準特選】

町教育長賞「大簾峠の雲海」

古谷正己（南丹市）

職員の配置

■新規採用（五月一日付）

滝本圭介（京丹波町病院理学療法士）

新宮さちよ（京丹波町病院看護師）

■異動（五月一日付）

山田加奈恵（京丹波町病院看護師）

小寺恵美（和知診療所看護師）

年々深まる都市と農村の交流

■和知ふるさと農園開園式

和知ふるさと農園の開園式が四月十八日、上粟野区内の貸し農園で行われ、利用者ら約五十人が参加しました。

同農園は、都市と農村の交流や農地の有効活用を目的に、上粟野の農家で同農園実行委員会を組織し、平成三年から毎年実施。二十年目の今年は、京都市などから十六（継続八、新規八）組が参加し、十一月の開園式・収穫祭までの

間、季節に応じた野菜苗の植え付けや収穫、草引きなどを行います。

この日は、地元農家に教わりながらジャガイモや大根、ホウレンソウなどの植え付けをした後、開園式を実施。開園式では、記念撮影やもちつきに続いて、同農園実行委員会代表の梅原一さんが「区民一丸となつて取り組んでいるので、わからないことがあれば尋ねていただき、和知の農園で野菜作りを楽しんでください」とあいさつした後、来賓の寺尾豊爾町長が「農園



植え付け作業を行う参加者（上粟野区内の貸し農園）

わたしたちの町

人口
16,812(−28)
男
7,946(−16)
女
8,866(−12)
世帯数
6,484(+5)
5月1日現在／()は前月比

[シリーズ] 第5回
食卓の一品に
どうぞ!!

地元で採れる 旬の食材を使った料理レシピ

豊かな自然に恵まれた京丹波町では、みず菜やホウレンソウ、伏見とうがらしなど、たくさんの野菜が栽培されています。地域で採れた野菜を地域で消費する「地産地消」の取り組みは、安心・安全な食生活を支える大切なものであるとともに、食を通じて地域の良さを再認識することができます。

このコーナーでは、地産地消の取り組みを推進する食生活改善推進員協議会のみなさんに、地元で採れる旬の食材を使った料理の作り方を紹介していただきます。

今回の
料理

「春キャベツの カラフル巻き」

【材料(4人分)】

- ◆春キャベツの葉(大) 8枚 ◆ネギ ……………50g ◆鶏ひき肉 ……200g ◇塩・コショウ …少々
- ◆ニンジン ……………80g ◆シメジ ……………50g ◆卵 ……………2個 ◇水 ……………大さじ1
- ◆ゆでタケノコ ……50g ◆春雨(乾) ……20g ◆ハム ……………4枚 ◇片栗粉 ……大さじ1

<調味料>

■作り方

- ①キャベツの葉は根元から1枚ずつ切ってはがし、たっぷりの湯で色よくゆでる。
*キャベツの葉に熱湯をかけておくと、はがしやすくなります。
- ②ニンジンは千切り、タケノコとシメジ、ネギは細切り、春雨はゆでてから5cm程度に切る。
- ③鶏ひき肉とニンジン、タケノコ、シメジを炒め、塩・コショウで味付けをする。
- ④③に春雨とネギを加え、水で溶いた片栗粉を入れて軽く炒めた後、具材を8等分する。
- ⑤薄焼き卵を4枚つくる。
- ⑥キャベツの葉を広げ、4枚は卵と④の具材、残り4枚はハムと④の具材をのせて巻き込む。
- ⑦食べやすい大きさに切り、からししょうゆやお好みのドレッシングを添える。

■栄養価(1人分)

エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	食物繊維	塩分
203kcal	18.5g	7.7g	90mg	3.7g	0.5g

1日に必要な野菜の量は300~350g。このメニューでは117.5gの野菜が取れます。



編集後記

取材で「観光写真コンクール」の審査会に参加しましたが、応募作品のレベルの高さに驚くとともに、自然風景や四季折々の美しさなどが収められた写真を見ることで京丹波町の良さを改めて感じました。今回感じたことを生かすためにも、町の魅力が伝わる写真、見る人に感動を与える写真が撮影できるよう、風景写真などにも挑戦しながら、技術力向上を目指してがんばりたいと思います。(K)

□当たりのやわらかいのは春キャベツですが、年間を通してキャベツは食卓に欠かせない食材の一つです。手早く調理することで食材の旨味と歯ごたえが味わえるとともに、たくさんの野菜の量が摂れます。

また、春の旬の食材としては、わらびやぜんまいなどがあります。旬は一瞬间であり、旬の食材を包み込んでおいしいだけなんですので、いろいろな味をお楽しみください。

〈次回は八月号に掲載する予定です〉



食生活改善推進員協議会
庶務 上田 百合子 さん
(曾根)

一言アドバイス